

Once-in-a-lifetime chance

中野 千鶴子

団結力の強かった2010年メンバー。何事も精一杯、前向きに取り組みました。大変だったけど、振り返ってみればあっという間だった3ヶ月間。何度も研修を重ねるうち、仲間としての絆も強く結ばれました。ベルフォンテンへの旅を終え、無事帰国報告を済ませるまでの軌跡を振り返りましょう。

《第一回研修会》5月29日(土) 神戸コミュニティセンターにて

前日に保護者説明会が終わったばかりの翌日午後、さっそくメンバーで集まりました。まずは自己紹介。普通にしている面白くないので、ゲームをしながら、みんなの名前をニックネームと共に覚えていきました。

そのお陰で、みんな一気にメンバーの名前とニックネームを覚えてしまいました。

びっくりしたのは、遅れてきためぐちゃんが、恐るべき暗記力を発揮して、全員の名前を短時間で覚えてしまい、他のメンバーに追いついたことです。思わずみんな、拍手してしまいましたネ。

そのあと、ベルフォンテンで行なう交流を考えるため、試験的に、震源地ゲームや人間知恵の輪などの遊びを全員でするうち、みんな徐々に緊張も取れて、仲良くなっていきました。

この日、全員で意見を出し合って、ベルフォンテンで行なうスピーチや交流の内容を決めました。

《第二回研修会》6月5日(土) 神戸コミュニティセンターにて

いよいよ本格的に準備に入ります。

この日、鈴鹿市教育委員会で働くSEFのメンバーが、研修会場に生徒達の激励に来てくれました。

SEFメンバーは全員オハイオ州立大学の出身で、現在、鈴鹿の各中学校に英語指導員として派遣されています。

派遣生達は、緊張しながら自己紹介をし、SEFメンバーの自己紹介を注意深く聞いていました。



SEFメンバーを前に、ひといづつ緊張気味に自己紹介をしました。

その後、アメリカの小さな子供たちに紹介する日本の伝統的な遊び「福笑い」の作成にとりかかります。

絵を描くのは得意！という子が中心となって、5つのグループに分かれ、日本の代表的なアニメキャラクターのキティちゃん、ドラえもん、ドラゴンボールやアメリカのスーパーマリオ、スポンジボブなどの輪郭を描き始めました。



SEF メンバーに、オハイオの話の聞いたり、自己紹介の仕方や福笑い作成にアドヴァイスをもらったりして、すでにここから派遣生達の国際交流が始まっていました。

ベルフオンテンでは、

SEF メンバーの活動もローガン郡の教育長達に紹介します。

発表をするにも、実際に逢って言葉を交わした人を紹介する方が、説得力が出ますよね。

こんな機会が持てて、本当に良かったです。



また、この日は鈴鹿ヴォイス FM の取材もありました。

鈴鹿ヴォイス FM では、毎週木曜日に鈴鹿国際交流協会とのタイアッププログラム「わいわいワールドヴォイス」のコーナーが放送されています。

パーソナリティの江本美華さんが、このコーナーで紹介する為、取材に来てくれました。



派遣生たちの動機や意気込みを聞いていたら、あまりに優等生的な発言だったので、思わず後ろで笑ってしまいました。ごめんね！



《第三回研修会》6月12日(土) 鈴鹿市民会館 2階展示室にて

この日は、過去にベルフォンテン事業に参加した先輩メンバー達が、激励に訪れてくれました。

2002年に参加した松田さやかさん、2008年に参加した和田見 蒔さん、北原慎也くん、富田圭吾くんが体験談やアドバイスをしてくれました。

さやかさんはすっかり大人になり、一昨年度のメンバー3人も、背が高くなっていたり、将来の目標が変わっていたりで、時の流れを少し感じました。



2002年度メンバーの松田さやかさん。ベルフォンテンに行ったことが、その後の彼女の人生に多大な影響を与えた、と SIFA にボランティア登録に来てくれました。そして、彼女のボランティアとして最初のお仕事が、この日、後輩達にお話をするのでした。彼女は、ベルフォンテン以降、中国へ留学したり、またアメリカに戻って仕事をしたいと思っていたそうで、彼女の体験談&アドバイスを派遣生達は真剣に聞いています。



そして、前回の先輩メンバーも3人来てくれました。お金はどれだけ持って行った？
どんなお土産が喜ばれる？
服装はどれだけ持っていけばいい？など、いろいろな質問に答えてくれました。



**全員で記念撮影！
前列左から4名が先輩メンバー。蒔さん、さやかさん、圭吾君、まきちゃん。
今年のメンバーに、先輩メンバーの友人や知人が居たりして、打ち解けた雰囲気の中、みんなでピース！
みんな、いい顔してます！**

先輩達のお話の後は、先週に引き続き、福笑いの作成です。



そして、ドラゴンボールの一部パーツを残して、ほぼ完成！！



どれも、すごく上手だね！！

そして、最後はよさこいの練習。この日、派遣生のほのちゃんが所属する「風神」のメンバー3人が指導者として、「よっちょれ」と「うらじゃ音頭」の振り付けを教えに来てくれました。



「よっちょれ」のはじまりのポーズから...
ひとつひとつ、振りを確認していきます。



真ん中がリーダーのPONちゃんこと前田里沙さん、向こう側が、小林周流くん、手前が中島実友ちゃん。
3人共、かっこよかったです！

《第四回研修会》6月19日(土) 神戸コミュニティセンターにて
この日は、派遣生のちからちゃんの家にホームステイに来ていたリズさんが、遊びに来てくれました。さっそく、前回に完成した福笑いを体験してもらいました。



出来上がりは…?



こんな感じてした!

リズさんにみんなの自己紹介を聞いてもらった後、はじめての歌の練習。
まずは、マイケルジャクソンの声に合わせて、歌詞カードを見ながら一緒に歌ってみます。
とても難しく、(こんなの歌えるようになるのかなあ……)と内心ヒヤヒヤしました。
それで、「変調になる一番難しい所はハミングにして、その間にひとりずつホストにメッセージを伝えていこうか?」とみんなに提案したのですが、みんなは「いや、全部覚える!」
と言う子の方が多く、彼らの情熱に少なからず感動しながら「じゃ、がんばって覚えよう!」
ということになりました。



その後は「よさこい」の練習。よさこいの
リーダーのなーちゃんとのちのちゃんが、全
員のポジションを色々考えて来てしてくれま
した。それをみんなで再度確認し修正します。
もうすでにこの段階で、皆の結束力が固ま
ってきていましたネ!

私が指示をしなくても、自分達で考え、アイデアを出し合って、試行錯誤する姿を、
とても頼もしく、微笑ましく見ていました。こんなに嬉しい瞬間はありませんでした。
途中で、HenryさんとMichieさんが、みんなの激励
にきてくれました。

彼らは、ベルフォンテンメンバーの選抜試験の時、
面接官だった人です。面接試験の時は緊張して、とて
も余裕がなかった生徒たちですが、この日は Henry
さんの国のウガンダの話や Michieさんのブラジルの
話を聞いて、質問などをして、とても楽しい時間が過ごせました。



彼らの話す英語を、生徒は一生懸命聞いて、とても良いリスニングの練習になりました。
最後はうらじゃ音頭におふたりを巻き込んで、みんなで一緒に踊りました。
じゃんけんに似た、ブラジルの面白いゲームのやり方も教えてもらいました。



最後はお決まりの・みんなでハイ！ポーズ！
CNS が取材に来てくれたのですが、たっくんと
いっくんが、すかさずカメラを使って悪ふざけ。
たっくんがハイテンションで、裁判所前で判決
を伝える！ポーターの真似をしていました！
女子は爆笑！楽しかったわー。

《第五回研修会》6月26日(土) 鈴鹿市民会館 2階展示室にて

この日、それぞれの受入れホストの発表をしました。

今回はホストが決まってくるのが早く、全員分一斉に発表することができました。

IFC(インターナショナル フレンドシップ センター)がアレンジしてくれるのですが、同じような年頃のいる家族で、お父さんの職業が一緒だったり、趣味が共通だったりと派遣生の家庭状況とよく似た家族を、大変決め細やかに選んで下さっていました。

IFC から送られてきたホストのインフォメーションを、みんなワクワク・ドキドキしながら読み、「Chico さん、これなんていう意味？」とか「同じ家庭の子供なのに、どうして苗字が違うの!？」など質問がいっぱいでした。



その日も少しだけ参加してくれたリズが、読みにくい文字の解説に協力してくれて、また、オハイオの自分の家の写真や雪景色の様子、観光で訪れるボストンの写真などを持ってきて、みんなに見せてくれました。実際に写真を見せてもらって、派遣生たちは夢が一層膨らんだようでした。

《第六回研修会》7月3日(土) 神戸コミュニティセンターにて

これまで研修は毎回、誰か彼かが訪れてくれていましたが、ようやくこの日、お客様もなく、派遣生たちは全ての準備・練習に集中しました。

出発式の練習、日本語・英語による自己紹介の練習、よさこいの練習、歌の練習に加え、ベルフォンテンで発表するスピーチについて、誰が何を発表するか、役割分担もしていきます。生徒のアイデアからやることになった茶道・書道については、担当者の未彩ちゃんが、まずは自分なりに発表内容を調べ、英語の資料も探して来てくれました。

《第七回研修会》7月10日(土) 牧田コミュニティセンターにて

この日は、風神の前田 里沙さん、中島 実友さん、谷崎 訓子さんがよさこいの仕上がりを見に来てくれました。さすがに何回も練習しているだけあって、全体的な動きは随分揃ってきていたのですが、この日はより完成度を上げるため、腕の動きや高さなど細かい所まで合わせていきました。前田さんにアドバイスをもらおうと、たちまち全体が



美しく揃い、一層自信を持って、踊ることが出来るようになりました。

これまで、ずっと声が小さかったあきちゃんが、この日は思い切って声を大きく出していたので、みんなびっくり！！自然と拍手が湧き起りました。

《第八回研修会》7月17日(土) 鈴鹿市民会館 2階展示室にて

この日は小林豊子着物学院の橋本豊梢先生に、飾り紐の結び方の指導に来ていただきました。ベルフォンテン市長やローガン郡のコミッショナーや教育長にお逢いした時、日本の伝統文化を紹介しながら、それがそのままプレゼントになったら素敵だなあと思い、橋本先生に教えていただくことにしました。



一本の組紐を編んで菊の花を作ります。手先を器用に使わなければならず、最初はなかなか難しかったです。一回出来るとコツがわかり嬉しくなります。

ちからちゃん、はじめは苦手そうにしていたけれど、後は何回やってもすぐ作れるようになっていましたね。この日遅れて来たりっくんも、習得が早く、以外に手先も器用で、出来上がりの完成度が高いのには皆びっくりしました。



レセプションなどの時、西洋では胸元に薔薇の造花などを付けますが、日本のフォーマル衣装の和服にはそれは似合わず、よく飾り紐を色々な形にアレンジして飾るそうです。今回作った菊の花は天皇家のご紋なので、フォーマルなパーティなどの時は合うようです。

帯の上に飾るととてもマッチして、なるほどお〜と納得しました。



橋本先生とお弟子さんの山本ゆきさんと一緒に、最後はお決まりの記念写真。教えていただいた技術は、忘れないように、その後の研修で何度も復習しました。ベルフォンテンでは、市長、コミッショナー、教育長の目の前で飾り紐を作って見せ、胸のポケットに飾り付けてさし上げる予定です。うまくいきますようにー。

《第八回研修会》7月20日(土) 鈴鹿青年会議所会館にて

この日、トップツアーの清由美さんが、旅行上の諸注意を説明しに来てくれました。荷物の制限について、入管手続きについて、現地の基本情報について、持ち物について等、色々お話を聞くうち、生徒たちもいよいよ出発が近づいてきたという実感が湧いているようでした。

この頃から私の方にも、荷造り、換金に関する問い合わせがよく入るようになりました。

《第九回研修会》7月24日(土) 鈴鹿市民会館 2階展示室にて

研修会もいよいよ終盤に入り、通しリハーサルが始まりました。

鈴鹿市役所での出発式～ベルフォンテンでのフェアウェルパーティまで、ひとつずつ順番通りにリハーサルをして行きます。

この日、未彩ちゃんが鈴鹿高校・茶道部の先生からお茶碗を12ヶ借りてきてくれて、実際にスピーチと合わせてお茶を点ててみました。

茶の心、茶室について、英語の説明とフリップを合わせ、お茶菓子を配り、お茶を点てる。時間を計りながら、段取り、流れを皆で確認しました。

未彩ちゃんが持ってきてくれたお菓子をみんなで食べて、お抹茶も美味しく頂きました。

ベルフォンテンのみなさんにはやはり本物で味わっていただきたい、という思いから、荷物にはなってもお茶碗はひとり一個ずつ持って行くことになり、この日、お茶碗を預かった生徒達は、とても大事そうにお茶碗をタオルに包みカバンに入れていました。

お茶碗は機内持ち込み手荷物の方のバッグに入れて持っていかなければなりません。

割れないようにタオルで包めば、けっこうスペースをとります。不自由があっても、持って行こうとするみんなの情熱・姿勢がとても嬉しかったです。

《第十回研修会》7月28日(水) 鈴鹿市民会館 2階展示室にて

生徒達は夏休みに入り、平日に集まれるようになりました。

スピーチの練習をメインに全体リハーサルです。

みんな先回よりぐっとスピーチが上手になっていました。ちゃんと練習してるね！

《第11回研修会》8月2日(月) 鈴鹿市立体育館 第2会議室

いよいよ出発2日前です。

例年なら、このような出発寸前に研修はしないのですが、7月18日～29日まで台湾に行っていたたっくんの帰りを待って、最後に全員で集まることになりました。通しリハーサルに入る前に、みんなでたっくんのみやげ話を聞きました。

たっくんは、鈴鹿高校書道部で台湾にホームステイに行ったのでした。

台湾の空港で、スター並みの歓迎を受けたこと。食べ物のことなど、お話ししてくれました。みんなより一足先に外国でのホームステイ体験をしてきたたっくん。

休む暇なしに、ベルフォンテン行きの準備です。

その後、駆け足でリハーサルをして、11回にわたる研修会を終えました。

振り返れば・・・

毎回猛暑の中、みんなよく集まって、準備・練習に励みましたね。

懐かしい思い出として・・・

高校2年生のたっくんとだいちくんが、お昼休憩中に外に出て行ったまま時間になってもなかなか戻らないので、どこで何をやっているんだ！？と心配し始めていたら、ダンボールを抱えてふたりが帰って来ました。

なんと、その中にはアイスクャンディが・・・



ふたりはみんなの為に暑い中、差し入れを買いに行ってくれていたんですね！

メンバーは中学2年生～高校2年生までいますから、先輩として気を使ってくれたんですねー(^_^) 優しいなあ～・・・本当にありがとう。

《出発式》8月4日(水) 鈴鹿市役所 市民ロビーにて



派遣生ひとりひとりが川岸市長に自己紹介をし、この旅の目標・抱負などを発表した後、リーダーのたっくんが、川岸市長に派遣生を代表して挨拶しました。

川岸市長からは、ベルフォンテン市長へのお手紙を預かり、温かいお言葉をかけていただきました。最後は市長も一緒にピースサイン。私も固い握手をしました。

最も緊張するセレモニーのひとつが終わりました。さあ、いざベルフォンテンへ出発！

《ボストン》 8月4日(水)～5日(木)

*マサチューセッツ州会議事堂



ローガン国際空港からバスに乗り、最初に訪れた場所が、ここ州会議事堂でした。

ビーコンヒルという丘の上にあり、隣にはボストンコモンという20万㎡もあるアメリカ最古の公園があります。屋根の上にあるドームには金箔(23金!)が張っており、とても象徴的でした。このドームの色は過去数回にわたって変わってきたようで、銅で覆われたり、灰色や黄色に塗り替えられたりしたこともあったそうです。

*旧マサチューセッツ州会議事堂



1776年にアメリカ独立宣言が読み上げられた有名なバルコニーです。ここから正式にアメリカ合衆国という国家が形作られていったのですね。

過去に何度か火事になり、その度に再建、修復を繰り返したようです。現在は地下に地下鉄が通っており、一階角は改札に繋がる入り口になっていました。

また、現在はここで結婚式も挙げられるそうで、このバルコニーに新郎新婦が立ち写真を撮ることが出来るそうです。屋根にはイギリス紋章のシンボルであるユニコーンとライオンの像がありました。

*ボストン虐殺地跡



のちにアメリカ独立戦争を引き起こすきっかけともなったボストン虐殺事件の起きた場所です。

旧州議事堂の真向かいの中央分離帯がその場所です。ここから旧州会議事堂の東側バルコニーを見上げ、足元を見ると、この円形に埋められた丸石があります。240年前に、ここで起こった発砲事件がきっかけで暴動が起こり、やがて独立戦争に繋がっていったのですね。

*Old City Hall とベンジャミンフランクリン像

ひっそりと落ち着いた木漏れ日の中に重厚な白亜の建物、旧市役所がありました。

その傍らには、アメリカ建国の父と呼ばれ、100ドル紙幣にも印刷されている、ベンジャミンフランクリンの像がありました。



←旧市役所
なんと現在は↓
ステーキハウスです。



←ベンジャミンフランクリン像。
彼は、アメリカ独立に尽力だけでなく、稲妻が電気であることを証明したり、アメリカ発の公立図書館を設立したり、大学をつくったり・・・偉大な貢献をたくさんしたマルチな人です。ボストン生まれだったんですね～



アメリカ合衆国建国の父のひとりとされ、ボストン茶会事件を組織し、独立宣言書にサインしたサミュエル・アダムスの像の前にて記念写真。



ファニエル・マーケット・プレイス。
大きなショッピングプレイスです。サウスマーケット、クインシーマーケット、ノースマーケットというモールが3列に並び、お店がびっしりとひしめいています。
レストランあり、フードコートあり、服や靴、雑貨などいろいろなお店があります。
レッドソックスのTシャツなどもあり、お土産を買うのに最適でした。1時間ではとても時間が足りませんでしたネ！



レストランでボストン名物のクラムチャウダーをいただきました。思った以上にこってりしていて、これだけでおなかいっぱいになり・・・(でも美味しかったですヨ！)ハンバーガーはパックに詰めて持ち帰る子がほとんどでした。

8月4日の朝、日本を飛び立ってから38時間ほどが経過していますが、まだアメリカは4日のまま・・・派遣生の疲れもピークに・・・

ホテルに戻ってからは、すぐ寝るのかと思いきや、生徒たちはひとつの部屋に集まり、UNOをしたそうです。体力あるねー。若いってすごい！！

一部の女子と外のコンビニに買い物に行ったのも、ちょっとスリルがありましたね！

*フェンウェイ球場



翌日はボストンレッドソックスの本拠地フェンウェイ球場に行きました。レッドソックスと言えば、松坂大輔が所属するアメリカンリーグのチームです。球場の外にかかっている垂れ幕の数字は、赤はワールドシリーズでチャンピオンになった年、青はリーグ優勝した年なんだそうです。



フェンウェイ球場には、「バンビーノの呪い」というのがかけられていたそうです。

野球の神様と言われたベーブ・ルースが、経営難からヤンキーズにトレードされて以来、86年間レッドソックス

はワールドシリーズで優勝を飾れなかった。これをベーブ・ルースの愛称「バンビーノ」にちなんで「バンビーノの呪い」というそうです。この呪いも2004年にレッドソックスが実に86年ぶりにワールドシリーズを制覇してようやく解けた、とされています。とても興味深いお話でした。

ここはとても小さい球場ですが、メジャー最古の伝統ある球場であり、古き良き時代の雰囲気を残しています。グリーンモンスターと呼ばれるフェンウェイ球場ならではの観客席（入手困難！）があり、ファンもどこより熱狂的で、ヤンキース戦ともなるとプラチナチケットと化すそうです。一度、ここで観戦してみたいものです。

*ハーバード大学



大学の図書館としては、蔵書数が第一位といわれるワイドナー記念図書館。

エレノアさんが、彼の収集していた数多くの希少本と図書館の建設費を彼の母校であるハーバード大学に寄贈したのです。

ここでも興味深いお話がありました。

言わずと知れた全米一歴史の古い超名門大学。

多くのアメリカ大統領やノーベル賞受賞者を輩出しています。ハーバード以外にも大学・教育機関がたくさん有り、とてもアカデミックな雰囲気の漂う町でした。

ハーバード大学の卒業式が行われる中庭には、重厚なギリシャ神殿風の柱の立つ図書館があります。

これは、タイタニック号沈没で亡くなったハリール・エルキンス・ワイドナー君の死を悼んで、母親の

それは、母親のエレノアさんが基金を出すに当たり3つの条件を出したということです。

- ① 図書館完成後は、絶対に建て増しや改築をしない。
- ② 図書館の中にある息子の書斎を永久に保存し、毎日お花を一輪飾る。
- ③ 入学試験に水泳の試験を加える。(タイタニック号沈没で亡くなった息子はかなづちだった為。)

この為、増築は苦肉の策から地下に張り巡らされているそうです。

そして、息子ワイドナー君の書斎は今でもあり、毎日お花が飾られているそうです。

残念ながら、ハーバード大学の学生か関係者でないと図書館には入れませんので、中がどうなっているか確認することは出来ませんでした。

入試の水泳試験は、身障者受け入れの問題もあり、現在は実施されていないようです。

タイタニック号沈没事件は映画でも観ているだけに、そこで亡くなった人の関係で、

図書館が出来たということが、とてもドラマティックで印象に残りました。

*ジョン ハーバードの銅像



創設者ジョン ハーバードの銅像・・・ハンサムねえ・・・
と思いつつガイドさんの説明を聞いていたら、この銅像には「3つの嘘」があるそうです。

- ①ジョン ハーバードは創設者ではなく、設立当時の有力な後援者のひとりだった。
- ②銅像に記されている創立年が間違っている。
1638年とあるが、実際は1636年。
- ③モデルはジョン ハーバード本人ではなく学生のひとりだった。当時はまだ写真がなく、ジョン ハーバードの肖像画も一枚も無かった為、人気のあったイケメンの学生がモデルになったとか・・・。

まあ、なんといい加減なことか。メチャクチャですねー。
ジョンの銅像の靴の部分に触れると、将来ハーバード大学の学生として戻ってこられるという言い伝えがあるそうです。みんなが触ったのは言うまでもありません。ですから、ジョンの靴の部分はピッカピカに光っていますね！



ハーバード大学の学生は、入学式後は正門を通らずに脇の門を通るそうです。正門を通ると落第するという言い伝えがあるそうです。卒業のその日に正門から出て行くのですね！なんだか素敵です。

*黒人系米国人（アフロアメリカン）歴史博物館見学

撮影が禁止されていたので残念ながら写真はありますが、19世紀の植民地時代からニューイングランドのアフリカ系アメリカ人の貢献について、様々な資料を大切に保存し解説している博物館です。

この場所を訪れたことには理由があります。それは2007年にベルフォンテンに派遣された先輩メンバーから始まりました。

2007年夏、当時の派遣生がデトロイトのフォードミュージアムを見学した際、白人至上主義者KKK（クー・クラックス・クラン）の白い衣装や、黒人のローザ・パークスが白人に席を譲ることを拒んだバスが展示されていました。

生徒たちはそこで、ローザ・パークスが生きた時代のアメリカは、南部でひどい人種差別があり、黒人が白人から隔離されていたことを知り、少なからずショックを受けていました。そこで、人権について考えました。

これがきっかけとなって、翌2008年の夏、派遣生はアトランタにあるキング牧師の記念館を訪ねました。ローザ・パークスのバス事件がきっかけでアフリカ系アメリカ人の公民権運動が始まり、キング牧師はその指導的立場で人種差別撤廃に尽力しました。

2007年、2008年どちらの先輩たちにも、互いの違いを認め合い共に生きることの大切さをお話しました。そして、今年のメンバーにも、もちろん、博物館に入る前になぜここを訪れたのかお話をしました。

鈴鹿もたくさんの外国人が私達と共に生活しています。少なくとも、ベルフォンテン派遣生たちは皆、外国人と日本人の架け橋になって、多文化共生社会の実現を目指してほしいと思います。

《ボストン→ベルフォンテンへ》

いよいよベルフォンテンへ。

寝不足のままボストン観光をしたせいか、これからホストと対面というのに、ベルフォンテンへ向かうバスの中で、寝てしまった面々が・・・
疲れていたんですねー。



男子4人が寄り添いながら眠る様子を見て、女子たちは「可愛い〜っ!!」と盛り上がっていました。大智くんは飛行機の中で一睡もせず、ボストンのホテルでもほとんど寝ていなかったため、とうとうネジが切れてしまいましたね。

《ホストファミリーと対面》



めぐちゃんのホストが一番のり
でした。



はるちゃんとなーちゃん是一緒のホス
トファミリーでした。



いっくんはさわやかに握手



たっくんもにこやかに挨拶



大智くんは寝起きでまだねむたそう..かな？
それとも緊張してる？



未彩ちゃんは、雰囲気の合ったホス
トファミリーで本当の家族みたい！



ほのちゃんは精一杯の笑顔で挨拶
してたね！



ちからちゃんのホストはとっても
きれいで優しいお母さんだったね。



あきちゃんはこちらからチャレン
ジが始まったんだね！



かったんは、ホストの到着が遅れて、少し
やきもきしちゃったけど、(木)～8日(日)
挨拶ができて、よかったネ！



雄登くんは、かっよく挨拶してるじゃ
ない！？スゴイ！！

そして私も、懐かしい
ギャッキーと再会！
彼女は毎回私のホスト
になってくれて、今や
"心の友"です。



***ベルフォンテン市長表敬訪問**

出発式で川岸市長から預かった書簡を、ベルフォンテン市長にお渡しし、鈴鹿を代表するアーティスト大谷芳照氏の紹介や、飾り紐の紹介などをしました。大谷芳照さんがベルフォンテン市長に宛てて書いて下さったサイン入りの作品集をお渡しし、また、派遣生達が一本の組紐から菊の飾り花を作り、市長やローガン郡のコミッショナーの方の胸に付けて差し上げたところ、大変喜ばれました。



ベルフォンテン市長室にて

***消防署見学**

市庁舎に隣接した消防署を見学。

消防士さん達が休む部屋や待機室などを見学し、その後、降下体験や消防服の試着体験、消防車の見学をしました。



いっくん、降下体験



男子4人でじゃんけん。勝った雄登くんが消防服試着体験



消防車の中を見学

***ローガン郡の教育長との面会**

ここでも、飾り紐を披露しました。レセプションなどの時、西洋では胸元に薔薇の造花などを付けますが、日本のフォーマルな衣装の和服にそれは似合わず、よく飾り紐で作った菊の花を付けるそうです。菊は天皇家のご紋ですね。



各自、教育長の前で一から作って見せました。一回失敗するとはじめからやり直したので緊張します。でも、みんな大成功でした！胸元につけてハイ！チーズ！！



他にも、茶道・書道の紹介をしました。
 「一期一会」の意味やお手前のやり方など、ひとつひとつ説明し、実際に本物の茶器を使って飲んでいただきました。教育長達は大変興味深く話を聞き、茶道の体験をされました。



教育長たちの視線が注がれる中、みさちゃんがお茶を点て、はるちゃんが飲み方の説明をしてくれました。すごく緊張したね！教育長のみなさんは、とても良い体験が出来たと、喜んでいらっしゃいました。

***ホンダオブアメリカ**

イーストリバティ工場の見学をしました。
 最初に昼食をご馳走になって、モニターを見ながら説明を聞きました。
 そしてイヤホンと防御用メガネをはめていよいよ工場見学。
 かなりハイテク化されており、工場内をたくさんのロボットが動き回っていました。



ロビーの壁にアイルトン・セナと本田宗一郎の写真がかかっていたのですが、派遣生のほとんどから「誰!？」という反応が返ってきて絶句してしまいました。これほどジェネレーションギャップを感じたことはありません。トホホ・・・

HONDAのマークが入ったバッグをプレゼントしていただき、最後に全員で記念写真

*リトルラーナーズデイケアセンター

毎年派遣生にとって一番人気の保育所訪問です。

小さい可愛い子供たちが、私達を出迎えてくれ、派遣生たちも大喜びです。

疲れ始めていた派遣生たちの目が、たちまち輝きとても元気になりました。

日本から作っていったアニメキャラクター5種類の福笑いを広げ、無邪気な子供たちと一緒に楽しみました。



日本地図を見せて、日本の形、鈴鹿の位置を子供たちに紹介しています。↑
いつか日本に来てくれるといいですね。



5つのグループに分かれて、福笑いを体験してもらいます。↑→
派遣生たちの力作の作品が教室いっぱいに広がりました。



うらじゃ音頭をみんなで踊りました。



最後にみんなで記念写真。今年は新聞兜を作る暇がありませんでした。

*マリーズキャンディ

毎年恒例のマリーズキャンディのチョコレート。

ホストファミリーや日本の家族や友人にお土産を買います。



かわいいお店です！！

《ホームステイ》

8月5日の夕方、ホストファミリーと面会してホームステイに入ったものの、その日はもう寝るだけで、翌日、朝早くから市内視察に入ったため、本格的なホームステイはここから始まります。

市内視察を終え、IFCの事務所でそれぞれのホストを待つ間、新たな緊張感が派遣生達の間を広がっていました。仲間とはしばしの別れです。

それぞれのホームステイの様子は、個人のレポートを読んでいただくとして、私もさっそく VICKI のお宅へお邪魔しました。

「ただいま～」と言って懐かしいベルフォンテンの我が家へ入りました。



VICKI の家は、相変わらず掃除が行き届いていてどこも綺麗に整理整頓されています。

忙しく働いているのに尊敬します！

私は毎年、VICKI のうちから日本へ帰ると、彼女の影響でしばらくは家の掃除をかなりするのですが、いつの間にかまた元に戻ってしまいます。とても VICKI のようにはいきません。すばらしい女性です。

その日の夜は、私のお気に入りのカフェで、イタリアン料理を食べながら、VICKI と旧交を温めました。

翌日は VICKI が結婚式で隣町に行かなければならなかったもので、IFC の Connie の所に遊びに行きました。そこでとても面白い体験をしました。

なんでもリユニオンの集まりがあるとかで、Connie の親戚の家に沢山の人が集まりました。参加者が皆それぞれランチのおかずを1品か2品持ち寄っています。

全部合わせると最終的には大変豪華なビュッフェコーナーが出来上がりました。

サラダ、メインディッシュ、デザート、ジュースがそれぞれ数種類ずつあり、食べきれない程ありました。



ビュッフェコーナーに持ち寄った食べ物を置くと、皆、隣接する倉庫に移動します。

そして大きな輪になりました。

「何が始まるのだろう・・・？」と見ていたら、まずゲストの紹介から始まりました。何人か紹介される中 Connie が手を挙げて私の紹介をしました。私が簡単に挨拶をすると皆の温かい拍手に包まれました。

これは、大きなファミリーの集まりで、Connie のご両親とその兄弟を第一ジェネレー

ションとして、その子供・孫・ひ孫・やしゃご達5世代が集まっているのです。

まるでゴッドファーザーです。(ちなみに Connie のお父さんが最高齢です。)

ゲストの紹介の後、ひと家族ずつ近況を報告していきます。ぐるりとひと回りする間に何度か爆笑したり、ため息をもらしたり、微笑んだり、色んな反応がありました。

近況報告が終わると、次のホストの当番を決めていました。

(たくさんいるけど一体何人集まっているのだろう・・・?) と思っていたら、ナンバリングが始まりました。「1, 2, 3・・・」そこに居る人全員が数を言っていきます。全部で93名いました。93名の大家族、すごいですねー。

その後みんなで手を繋いで、お祈りをしました。

Connie に、このイベントは子供・孫の世代になっても続いて行くと思う?と聞いたら、私たちの世代はOK だけど子供になると・・・どうかな?と案じていました。

実際に都合が悪くて来ていない第3世代も多く、Connie の言うことも理解できますが、とても温かい素晴らしい集まりなので、是非続いて行って欲しいなあと思います。

その後各ファミリーが持ち寄った食べ物をプレートに取り、昼食となりました。コップもプレートも各ファミリー持参です。合理的です。

Connie が、「これは私が作ったの。」「これはうちの母が作ったの。」と指差すものをプレートに取って Connie 一家とテーブルを共にしました。

会場には0才のベイビーから82才のおじいちゃんまで居て、脈々と血が受け継がれている様を見るのは感動的でした。

まさに「ゴッドファーザー」の映画さながらのパーティに、興奮を覚えた午後でした。



可愛い Gracie ちゃんと、ふたいでお散歩しました。2才でよくしゃべる女の子でした。



左から Connie, Connie のお母さん、Connie のご主人 Tim, Connie のお兄さんの Doug。



Connie 一家と集合写真。左から、Connie のお父さん、お母さん、Connie と夫の Tim, Chico, Connie の上の兄 doug と奥さん、下の兄 Mike と奥さん、Mike の息子と奥さん。右の若いふたりは婚約したばかりで、彼女の左の薬指には立派なダイヤモンドが輝いていました。皆 Happy で笑顔です。全員で日本式のハイ、チーズ!!



リユニオンのパーティの後は、湖畔にある Connie の自宅に戻り、インディアンレイクのクルージングに出ました。ボートは Connie の下のお兄さん Mike が出してくれました。Mike と Annie はコロンバスに住んでいて、週末になるとベルフォンテンのトレーラーハウスに遊びに来て、クルージングを楽しんでいるそうです。

Connie の家のベランダからはインディアンレイクが見渡せ、その庭先からいつでもボートが出せます。羨ましい環境ですねえ。



色々なお話をしながら、のんびりとクルージング。何もなくても、この景色と風が感じられればそれだけで幸せです。なんて豊かに生きてるんだろう、と羨ましい限りでした。



望遠鏡で鷹の巣を探したり、すれ違うボートやカヌーの人達と挨拶を交わしたりしながら、徐々に日が暮れていきます。

刻一刻と日が落ちていく様を、いい気持ちで眺めながらついに日が暮れると、その後はナイトクルージング。灯りが一切ない暗闇の中に、日本では滅多に見られないような星・星・星。そしてシューティング・スター。実は人生で初めて見る流れ星でした。

翌朝は、VICKI の家に Connie や友人が集まってブランチ。

Connie のご主人の Tim はとてもひょうきんな人で、何度も笑わせてもらいました。

6月から続いた研修の疲れが、このホームステイで癒されていくようでした。派遣生たちはどうしてるかな？今回は SOS の電話もないし、みんな上手くやっているのかなあ・・・と時々思い、無事を願いました。



左から Connie, Chico, Connie のご主人の Tim, Vicki の友人の Tom. Vicki が作ってくれたブランチをいただきながら、フルサイドで楽しくおしゃべり。贅沢な朝です。



ダイアナ妃のような VICKI。
 とっても聡明で働き者で優しい人です。
 どうか彼女が幸せでありますように・・・と
 願わずにはられません。

**My dearest Vicki,
 Though you are busy, thank you for always accepting me
 warmly. Because you are a hard worker, I am anxious
 about your health.
 Please please take care of yourself.
 I pray for your happiness anytime.
 God has a plan for you.
 I look forward to it very much and wait. Good Luck!**

*フェアウェルパーティ

ホームステイ最後の夜。シルバーセンターでフェアウェルパーティがありました。
 久しぶりに派遣生達と再会です。
 みんな元気にやってくるのでしょうか？



みんな家族に馴染んで、いい
 感じで入ってきました。
 はじめはぎこちなかったけど、
 頑張ってコミュニケーションをと
 った子、ホストの子供になつか
 れて放してもらえない子など、
 それぞれが家族の一員となって
 元気な姿を見せてくれたので、
 安心しました。



5 年前の派遣メンバーのホス
 トファミリーのライアン君とそ
 のお母さん。ライアン君は、そ
 の翌年の夏にベルフォンテン
 の派遣メンバーとして鈴鹿を
 訪れました。
 それから2年前に日本に再来
 日し、鈴鹿との交流を続けて
 います。
 現在も日本語を勉強し続けて
 おり、日本の大学院へ入るべ
 く頑張っているそうです。
 第2、第3のライアン君が、た
 くさん出てくれるといいなあ。



ベルフォンテンで生活し
 ている日本人親子。飛び
 入り参加してくれました。



添乗員の清さんとホス
 トの Kori さん。清さんには
 大変お世話になりました。

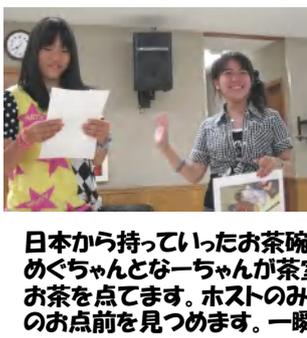
《発表》

6月から研修を重ねてきたこと全てを披露しました。
鈴鹿出身の世界的アーティスト大谷芳照さんの紹介。
書道と鈴鹿墨の紹介とデモンストレーション。



書道部に所属するたっくんが、鈴鹿墨で書いた習字を披露し、「一期一会」「友」「平和」「愛」など色々な言葉を書いて、各ホストファミリーにプレゼントしました。これがとても好評で、みなさん本当に喜んでくれたのでとても嬉しかったです。たっくんも、教育長の前で書いた時は、少し悔いが残ったようなので、ここでリベンジできてよかったですね！

それから未彩ちゃんとはるちゃんが茶道を披露。



日本から持っていったお茶碗と千代紙で作った乾菓子入れ。
めぐちゃんとなーちゃんが茶室の説明をしている間に未彩ちゃんがお茶を点てます。ホストのみなさんは真剣な眼差しで、未彩ちゃんのお点前を見つめます。一瞬シーンとなり緊張感に包まれました。



それからよさこいの「よっちょれ」を披露し「うらじゃ音頭」をホストと一緒に踊りました。



そして最後にホストや IFC のみなさんに、感謝の気持ちを込めて、マイケルジャクソンの「Heal the world」を歌いました。

歌の最後には感極まって泣き出す派遣生やホストもいて、大変心温まる素敵なパーティーになりました。



最高潮に盛り上がった後、日本から持って行ったはっぴを、ホストにプレゼントして最後に記念撮影。みんないい顔してますネ！良い思い出が作れました。



解散後も名残惜しく、ホストとの写真撮影が続きました。男子は揃ってそれぞれのホストと記念撮影。明日の朝の別れはどうないますか・・・

《別れの朝》





例年のことながら、女子は涙！涙！のお別れでした。
男子は再会を誓って、さわやかに握手してましたネ！
このご縁を大切に、ずっと交流を続けていって欲しいと思います。



なんだかひとまわり大きくなった派遣生達。帰りの飛行機の乗り継ぎにも余裕が見えました。
そして、無事セントレアに到着。皆疲れも見せず元気です。
ベルフォンテンでは携帯の電波が通じず、家族と連絡が取れなかったため、皆久しぶりに家族に連絡をしていました。

《鈴鹿市長への帰国報告会》

8月13日（金）鈴鹿市役所で川岸市長に帰国報告をしました。
派遣生達の提案で、ベルフォンテン市長からいただいた T シャツを全員で着ることに
なりました。まず私がスケジュールに沿った全体報告をし、続いて派遣生ひとりひとりが、この事業に参加して得た感想や体験談を自分の言葉で話し、報告していきま



川岸市長、水井教育長からお言葉を頂き、その後協会の平井理事長からも激励の言葉がありました。
この日派遣生達がした情熱的な報告が、日常に戻った後も薄れていかないよう、今後も国際的な視野を持ち国際交流を続けていって欲しい、という言葉を生徒達はとても真摯に受け止めていたようでした。



最後はやっぱりみんなで記念撮影。毎回やってきたピースサイン。Peaceの気持ちを込めて・・・ハイピース！！

《おまけ》

* 鈴鹿ヴォイス FM「めっちゃすずか」に生出演！！



みんな、か〜わいいなあ〜♪♪

市長への帰国報告の後、スケジュールの空いているメンバーで地元ラジオ局へ行きました。国際交流協会とのタイアップコーナー「わいわいワールドヴォイス」に生出演して、ライブでベルフォンテン市派遣事業の活動報告をしました。初体験だということに、市長報告の時の緊張とは打って変わって、みんな生き生き！！ワイワイ！！パーソナリティの美華さんから、「あ〜若いっていいなあ！」という感想が出るほどの明るく楽しいひとときとなりました。

《最後に・・・》

5月の選抜試験後、約3ヶ月間、共に時間を過ごしてきて、仲良くなったメンバー達。自主的に自分達で考え、前向きにひとつひとつの作業、練習に取り組みました。中学生、高校生と立場がそれぞれ違っても、その中でそれぞれが役割分担をし、お互いにカバーし合って、絆もより深まりましたね。

これから、各自、自分の環境へと戻っていきますが、2010年の特に暑かった夏、皆で力を合わせて色々な準備をし、練習を重ね、ベルフォンテンに行ったこと、そしてそこで温かく受け入れてもらいホームステイをしてきたこと、肌で感じたアメリカとアメリカの人達のこと、みなさんの思い出の引き出しに大切にしまっておいて下さい。そして、時々その引き出しを開けて、その時に味わった感動を思い出して下さい。

この経験がきっかけで、これから少し世の中の見方が変わると思います。

世界のニュースも、もっと身近なものになっていくはずですよ。

今回はアメリカだったけど、次はどここの国を知りたいですか？

どこの国にでも、そこに生きている人々がいます。生活をしています。

これからの長い人生、常に世界を見つめながら、大きな視野を持って、隣にいる外国人と仲良くして下さい。

毎回写真を撮る度にしていたピースサイン。

本当に Peace な世の中になるといいですね。

みなさんが、もっともっとたくましくなって、大きくなって、夢を持って成長していく姿を、とても楽しみにしています。

お疲れ様でした。

たまには協会にも遊びに来てネ！

Chico

To all of host families, IFC staff, and all people concerned,

We are most pleased that the friendly relations between Bellefontaine and Suzuka continue to develop steadily through various exchange activities.

Our delegation members met the mayor and the superintendents of education and introduced Suzuka and Japanese culture, and it was joy of them that they were able to observe each institution of the Bellefontaine.

We thank the hosts who kindly and warmly accepted students heartily.

The home stay was very valuable experience for them.

I hope the exchange of you and students continues for a long time in future.

Finally I thank very much to the IFC staff.

Your significant efforts in arranging a special welcome for us are greatly appreciated.

I look forward to forging an ongoing relationship between Bellefontaine city and Suzuka city.

Thank you.

Chico